

東帝文ニュース

EAST TIMOR NEWS No.9

2002年4月21日

尾花(すすき)がまた咲いています。私が東ティモールに来てから、二度目です。雨季から乾季と、乾季から雨季への季節の変わり目に咲くのでしょうか。稲の二期作ができるのですから、ススキの二期作も有りなのでしょう。ひょっとすると、三期作も可能かもしれません。(これは、無理だな。)自然もやるものです。日本で育った私は、自然の中での花や果実には、どれも年に一回しかお眼にかかれないものと思ひ込んでいました。稲の二期作も、ススキの如く自然が人間に示唆したのが始まりなのかもしれません。

シャナナ・グスマオンが大統領選挙キャンペーンのためエルメラ県都グレノに来ました。例によって野次馬の高塚は、駆けつけました。相当の人出かと覚悟していましたが、そうでもありませんでした。かつては、チェ・ゲバラにも相当する現代の英雄でした。シャナナを応援するための隠れ蓑にゲバラの似顔絵やら写真を、服や家の外壁に貼り付けてありました。現在では、特定の外国政府との結びつきが報告されたり、政治的立場の不鮮明さが指摘されたりして人気が翳っています。シャナナの影武者としてのゲバラではなく、ゲバラ本人を英雄視する者が増えています。今回の演説でも、日本の自衛隊について触れました。現在の自衛隊は、昔の兵隊とは違し、この時期に国作りに手伝ってくれる人々を非難しては良くない、感謝するべきであって、反対デモがあったことは、恥ずかしい、と発言しました。一方で、紛争期の犯罪については、事実を調査、記録し、裁きを受けなければならない。その上で和解ができるのだ、とも発言しています。とすれば、日本の過去についても、同じく事実についてその責任を明確にしなければならないのでは、ないでしょうか。シャナナのこの辺の論理の不徹底さ、歯切れの悪さが、今の彼への冷めた視線であろうかと思えます。

やっと出会いがありました。Mariaさん。一を聞いて十を知る。26歳までに7人の子供を出産。その後看護学校に通い始め、助産婦としての経験が20年弱。一方で、ある婦人団体の郡支部長を努めていた。現在は、エルメラ県のコミュニティラジオ局設置委員会の副委員長、又主権回復記念日に向けたエルメラ県文化事業の責任者を共に無給でこなす忙しい日々を送っています。そんな人は、殆ど居る筈がありません。でも、そんな人に出会えたのです。彼女の夢の一つは、「生活薬局」を開く事。彼女の言う「生活薬局」とは、薬に頼らない生活のためには、植物に冷却効果のある事の重要性、薬としての効果など、伝統薬草を含めた植物のより広い意味を考える必要があると考える事から、それを生活に取り入れる事を広めるお店、という事だそうです。今日の気持ちは、「明るいナショナル」。

ポインセチアという花(?)があります。私には、「日本では、冬季のクリスマスに飾る花」、という思い込みがありました。ここ東ティモールでは、年がら年中咲いています。垣根や、道路脇に生垣として植えてあります。放っておいてどんどん増える植物ではありません。人間の手入れが必要です。赤い花に見えますが、赤い部分は、花卉(花びら)ではありません。きっと、古い時代の様子を伝える植物の一つなのでしょう。何故そんな、熱帯に生息する植物が、日本では、冬の風物の一つになったのでしょうか?ご存知の方が居られたら、教えてください。



↑ 咲き誇るポインセチア

帰還難民を送るコンボイ(輸送集団)とグレノ(エルメラ県都)で会いました。大型トラック20台位が陸続と続いたのでしょうか。感動しました。一旦故郷を離れざるを得なかった人々が、故郷に帰れる思いは、如何ばかりでしょうか。私は、こんな時に、彼らになってしまいます。嬉しさの余り、涙が出て来てしまいました。あと何キロ、あと何時間で故里に着くんだ。この景色は、グレノ辺りだ。東ティモール、生まれ育った所、嗚呼、空気が美味しい。でも、共に育った人々は、逃げ出した私達を、何の迷いも無く受け容れてくれるだろうか?思わ

ず、手を振りました。よく帰って来ましたね。人の心の蟠りは、簡単には、溶けないかもしれません。でも、太陽も、花も、土地も、鳥の囀りも、木の葉の擦れる音も、空気も、風も、そして夜の月も、星もあなた方を受け容れています。今の気持ちは、「少年時代」。声高らかに、唄いたい気分となり、自然にハミングしてしまいました。この人達は、大統領選挙の投票も出来るという事でした。併し、まだ何万人か人が、西ティモールの地域に残っているのです。早く帰郷できることを祈ります。

昨年8月末から活動されていた樋口倫代さん（医師）が、4月9日一旦日本に戻りました。今月末までが任期ですので、残りの期間は、日本で報告会を開くためでもあります。当地では、ドトール、ドトールと親しまれました。話が面白く、男勝りの様でありながら、実は、奥床しさを秘めた人情味溢れる方です。SHARE退任とは言え、東ティモール保健省雇用の医者として、あらためて5月からこの地で診療する事が決っています。再会を望む人々が何と多いことか、羨ましい限りです。本人曰くには、「何ちゃってクリスチャン」ですが、毎週日曜日には、エルメラ教会の御ミサに参加し、レテフォホ在住の女子の名付け親にもなりました。夜中に、出産の迫った人から呼ばれても、喜んで出向きました。東ティモールの人々をこよなく愛する気持ちが溢れていました。出会いがあって嬉しく思いました。有難う御座います。

アイナロという町に行きました。26歳の方で、農業を勉強した日本人男性、ボランティア志望者。その方を、活動地にお連れする旅の道連れとなりました。こちら居たって気楽、道中景色を眺め、べちゃくちゃお喋りをしながら、片道5時間半。お相手は、堀江神父と、山中君（AFMET）。それぞれが、話したい事は、腹に一杯。気が付いてみれば、目的地。此処で始めて、男性の存在に気が付く程、彼は、全く静謐の人でした。それは、そうでしょう。初めての外国。言葉は通じない。自分の技術が通用するかは、未知数。謙虚と言えば、謙虚。そんな人が、まだ日本に居たんだと、一人で納得する事、しきり。例え失敗しても、まだ若い、人生は、あと二回は、試せる。とか何とか、訳の解らないエールを送り、彼を置いて帰路に着きました。もともと、堀江神父は、もっと適切に助言をし、受入先の神父様にも、鄭重に申送った事は、言うまでもありません。ところで、アイナロの民家には、各家に少なくとも一本のココアの木が植えてありました。屋根飾りも、エルメラ郡にある物とは、異型でした。特に、玉蜀黍の乾燥棚は、独特の物。いずれ又、ゆっくりと行きたい所です。

大統領選挙が終わりました。投票率は、86.3%の高率。得票率82.7%にて、シャナナ・グスマオン氏（右の写真）が初代大統領（第2代？）に選出されました。1995年東アフリカ、ウガンダにての初の民主的選挙による大統領選では、民衆は熱狂的に喜び、ムセベニ大統領が選出された時には、興奮は頂点に達し、大フィーバーでした。野次馬高塚が首都カンパラに車で出ると、車の周りを花を持った群集が取り囲み、車を揺らしながら、花を投げ込むのです。笑顔で。エルメラ郡は、静かなもので、普通の日と何ら変わりません。本日コニス・サンタナのお墓参りをしました。土地の殆どの人もその所在地を知らず前任者みどりさんと、尋ねあぐねました。昨年のごとくでした。大統領選挙の結果を報告しました。



レテフォホ郡で慣習家屋周辺を見せて貰いました。女性のシンボルである、茅葺の家。男性のシンボルである木彫りのトーテム。そして王権の印であるポール。この三点が、セットとなっていました。慣習家屋内部には、水牛の角のトーテムと共に、マリア像が祀られていました。女性を象徴する物であれば、マリア像も当然ですが、何か別の意図を感じてしまうのは、考え過ぎでしょうか？それ以外にも、基督教聖書、銅鑼、剣、角笛がありました。角笛は、リードが無く、唇の一部を震わせて音を増幅させる物です。法螺貝、ディジュリドゥ等と一緒に。人々を呼び集めるために使うそうです。男性のシンボルであるトーテムには、渦巻き文様が左右対称で刻まれていました。その脇には、東ティモール及び東アフリカのウガンダでも、土地の境界に用いる植物 Ai-Buga（日本語の名前は、今のところ知りません。）が植えられていました。王権の印は、国旗掲揚ポールのとっぺんに据えられていたので、よく見えず、細部については表現できません。併し、今回が初めての訪問でしたので、あらためてゆっくり行って、話を聞こうと思います。

縷紅荘主人
高塚政生 記